



Plus RMA



第2号 2020/7/1

一般社団法人 RMA

🍇 CONTENTS 🍇

- 🍇 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と危機管理……………
国立感染症研究所 感染症疫学センター 医学博士 重松 美加 先生 2
- 🍇 信頼は合理的なものであるが、人は安易に人を信頼してしまう…………… 宮川 雅明 4
- 🍇 **連載** 国際規格 ISO 15189 とは何か …………… 関 顯 6
⑥ ISO/TC212 と WG5 の活動状況
- 🍇 品質マネジメント関連書籍販売のご案内…………… 8
- 🍇 RMA2020年度公開セミナー・講演会 開催予定表 (更新)…………… 9
- 🍇 事務局だより …………… 11

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と危機管理

国立感染症研究所 感染症疫学センター

医学博士 重松 美加

自然災害と感染症の違いは、最初の被害の事象全体に対してしめるインパクトの大きさである。加えて、時間経過とともに累積し増大するリスクが個人により大きくばらつくことも感染症の特徴である。

新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) による感染症 (COVID-19) は、2019年12月に中国武漢市で発生したことが国際保健機関 (WHO) へ報告されてから¹⁾、瞬く間にアジア、欧州、北米大陸とパンデミック (世界的大流行) へ発展した。マスク着用が有効な飛沫あるいは飛沫核感染であるにも関わらず、急速かつ広範に拡大した原因は未だ分析中である。症状も肺炎、味覚・嗅覚の異常、発熱、関節痛、消化器症状、全身倦怠等と多種多様である。2002年に発生した同じコロナウイルス科で致死率が高かった重症急性呼吸器症候群 (SARS) とも、季節性のコロナウイルス感染症とも異なった感染の広がりを見た。原因は、二次感染リスクを上げる潜伏期を含む感染能力がある期間の長さか、それとも無症候感染者の多さだろうか。特定の治療薬や予防ワクチンは、いずれのコロナウイルスにも未だ無い。

一方で、検査室での取り扱いや臨床検体の診断に違いはあっただろうか。感染症で一般的な血液検査に始まり、胸部の画像診断、遺伝子を検出するPCR検査 (Polymerase Chain Reaction: 特定の核酸配列の量を増やす工程—増幅をして検出する技術)、遺伝子解析、ウイルス培養と必要な検査法は既知のウイルス感染症と基本的に同じであったが、昨今多用されているPOCT (Point Of Care Testing: 被検者の傍らで医療従事者が行う検査) の抗原・抗体検査用キットがいずれも無く、利用できなかった。結果、確定診断がPCR検

査に集中することとなった。新興のウイルスであったことからPCR検査の増幅工程で用いるプライマー (目的の核酸に相補的な性質をもっている物質) の作製や条件設定に始まり、当初は精度管理と病原体のバイオリスク管理のために検査の間口が狭く始まり²⁾、検査数の増加スピードが感染拡大に追いつかず、世間の批判を浴びた。

2020年7月1日現在、世界の患者数は1000万人を超え³⁾、日本でも18,874万人 (内975人死亡) に上り、感染管理、医療、経済対策、情報共有などの初動の反省が語られ始めている。実は、感染症と危機管理の初動における最初のステップは (バイオ) リスクアセスメント⁴⁾であり、同一である。イベントの評価結果がBCPをはじめとした対策を設計する情報源となる。評価は各ステージ (世界、国、地域、市町村、世帯) において感染症の感受性人口の構成、医療システム、生活様式、インフラ整備の状況、余剰リソースの規模など、リスク、実行可能な対策、必要な資材が異なるため誰も人任せにすることは出来ない。

今回のCOVID-19事例は、ISO 35001「試験所及び関連組織のバイオリスクマネジメント」の要求事項で紹介した①客観的指標に基づくリスクアセスメントの開示、②エビデンスに基づいた透明性のある対応策の採用、③成果のモニタリングと外部評価による改善の仕組みの事前構築と習慣化、が検査室内と同様に検査室外の未知の感染症や危機管理に立ち向かう際にも肝要であることを示した。住民とそれらを共有することにより始めて難局を乗り切る協力が得られる。

<参考文献>

- 1) Situation report - 1, Coronavirus disease (COVID-2019) situation reports
<https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/situation-reports>
- 2) 新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) PCR検査法の開発と支援の状況について
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/others/9478-covid19-16.html>
- 3) WHO Coronavirus Disease (COVID-19) Dashboard(2020年7月1日アクセス)
<https://covid19.who.int/>
- 4) ヒヤリ・ハット事例の共有とバイオリスクアセスメント. 今日から始める 臨床検査のヒューマンエラー対策.
Medical Technology 2016; 44(13): 1386-1393.

信頼は合理的なものであるが、 人は安易に人を信頼してしまう

一般社団法人 RMA理事
英国国立ウェールズ大学トリニティセントデイビッド(UWTSD) 大学院特定教授
経営コンサルティング会社代表取締役
宮川雅明

オキシトシン

赤ん坊は生後1時間もすると自分を見ている相手の顔を見つめる。そして数時間の内に親の表情を真似るようになる。母親は即これに反応し赤ん坊の表情を真似る。元々人は社会的な生き物だと誰もが認めるところだろう。

オキシトシンという脳内物質がある。スウェーデンではタッチケアは一般的で触れることで痛みなどを和らげる効果がある。母親が抱っこをする、認知症の親の背中をさする、ペットを撫でるなどするとオキシトシンが発せられる。オキシトシンが肯定的な精神状態や人間関係を助長させることは立証されている。

簡単に人を信用する

ある実験で被験者の顔を誰かの顔(画像)に徐々に似た姿へと変化させていく。顔が似ていれば似ているほど被験者は画像の人物を信頼することがわかっている。

自分と同じ社会集団の人を信頼したくなる。同じ故郷、同じ学校、同じ趣味。無作為に分けた集団にさえ連帯感が生まれる。内集団効果といわれている。あるゲームで被験者たちの背中に触れるだけでお互いが協力的になる。このように様々な状況において容易に人を信じたりすることを、ロデリックM. クラマー(スタンフォード大学経営大学院教授)は“推定信頼”(presumptive trust)と呼んでいる。

考えてみるとそれは自然なことだ。殆どの人が家庭、

学校、会社、社会などの関係を通じて人間や組織は基本的に信頼できるという経験をしている。よって、人を信頼するというのは不合理ではない。むしろ、信頼というのは集団にとって欠かすことのできないものであり、皆の利益に資するものであるので、信頼する傾向があるというのは合理的といえる。

暗黙理論

人は見たいものしか見ない、誰もがそう思っている。何故そうなるのか。心理学では“確証バイアス”と呼んでいる。自分の仮説を支持するものを重視し、反するものは無視するか割り引いて考える。殆どの人が視認できる情報(顔つき、年齢、人種、身なり、挙動など)と内面的な心理特性(信頼できる、誠実、善人、真面目など)と関連すると考えている。このような思い込みを心理学では“暗黙理論”(implicit theories)と呼んでいる。

また、困ったことに多くの人が「自分は人を判断する能力がある」と思っている。自分を知らない、過大評価するものである。例えば、自分が生活している周りには、そんなに悪い人はいない、自分を騙そうなんて人はいないと思っている。或いは、自分は人並み以上に長生きもするし、幸せな結婚生活を送れると、何の根拠もなく思っている。心理学では、“非現実的な楽観主義”(unrealistic optimism)と呼んでいる。

信頼は転移する

以前、信頼の3要素を紹介した。その一つに外部の権威というのがある。あの先生がこういった、だから信頼できる。信頼のお墨付きを第3者に求めることがある。SNSでみんながそういっている、というのはどうだろうか。これに信頼の根拠はない。客観的推論にも欠ける。

今、この外部権威が根底から揺らいでいる。日本の話は聞きたくないだろうから、海外の話にする。ボーイング社は2017年時点で737MAXに安全性の問題があることを知りながら公表しなかった。2018年、2019年と2件の墜落事故を起こし搭乗者全員が死亡した。

ユナイテッド航空は、オーバーブッキングをしてしまい、医者を引きずり下ろした。旅券を持っている2歳の子供のチケットをキャンセル待ち顧客に売ってしまい、母親の膝に座らせることを強要した。ペットの子犬を頭上の収納に入れるよう強要し、結果死なせてしまった。

信頼は移転すると説明したが、そうであるなら不信も移転する。

信頼は組織そして社会を動かすエンジンであることに間違いない。止まない不正が続く中、信頼のメカニズムをどのように構築し発信し認知させてくかは中心的課題といってよい。

参考文献)

Harvard Business Review(2009)

“Rethinking Trust” スタンフォード大学経営大学院教授 Roderick M. Kramer



《連載》 国際規格ISO 15189とは何か

⑥ ISO/TC212とWG5の活動状況

一般社団法人RAM理事
ISO/TC212国内検討委員会委員
関 顯

1. ISO/TC212/WG5の活動

ISO/TC212/WG5は、Laboratory biorisk management (試験所のバイオリスクマネジメント) に関する規格をスコープとしている。コンビーナはPatricia Olinger (英国) でメンバーは、約20か国から推薦されたバイオリスク管理の学術専門家と管理実務に関わる機関からの実務担当者、リエゾンのABSA、MedTech Europe、WHO、ISO/TC34/SC からの専門委員80名余りで構成されている。

WG5の活動の歴史は浅く、2014年にカナダ・トロントで開催された総会でバイオリスクマネジメントシステムに関する規格に特化した審議を担当するWGとして設立された。WG5の担当は、ISO 35001の1件だけである。検査業務の安全と運営継続に関わるCWA 15793:2011「検査室のバイオリスクマネジメント」の国際規格化を目的に作業が進められ、2019年11月に国際規格が発行となった。

この文書は、臨床検査室に加え、ワクチン・製薬メカ、研究機関(臨床研究センター、衛生研究所)などにおける生物学的材料の保管、輸送、および/または処分の安全基準とバイオリスク管理に適用され、ISO 15189に対する補完的な指針を提供する。

現在、WG5では2018年8月にCEN(欧州標準化委員会) ワークショップ協定のCWA 16335:2011 “Biosafety professional competence バイオセーフティ専門家の力量”を原案とした新規作業項目提案NWIP Biosafety Advisor Competence バイオセーフティ専

門家の力量”さらにCWA 16393 “Laboratory Biorisk Management—Guidelines for Implementation”などに基づくISO 35001の支援文書として「検査室及び関連施設のためのバイオリスクマネジメントガイダンス文書」の国際規格化を目指す活動が進められている。

これらの規格は、今後、新型コロナウイルス禍で重要視されている臨床検査室のバイオリスクマネジメントとして、ますます重要性が高まると考えられる。

2. ISO/TC212国内検討委員会WG5の活動

ISO/TC212国内検討委員会WG5は、重松美加国内代表(国立感染研究所)の下で日本臨床検査医学会、日本臨床微生物学会、日本臨床衛生検査技師会、日本衛生検査所協会、日本臨床検査薬協会、日本分析機器工業会から委嘱された10名の委員で構成されている。ISO/TC212中央事務局から依頼された審議規格について国内検討委員会がWG5委員に意見徴収を行い、その結果に基づく意見をISO/TC212中央事務局に提出するとともに規格文書承認に関する投票を行う。

3. ISO 15189の改訂

ISO中央事務局からの連絡で9月30日まで会議はWebまたは延期となった。新型コロナウイルス感染症Covid-19のパンデミックの影響でCD投票が2020年6月まで締切が延長され、現在コメントを集計中である。11月には、スウェーデン・ルントでISO/TC212総会・WG会

議が開催の予定である。今後、2021年2月には次の段階のDIS登録、10月にはFDISと審議を進め、2022年3月の国際規格 (IS) 発行を目指す。

表ISO/TC212/WG5 Laboratory biorisk managementで審議中の項目

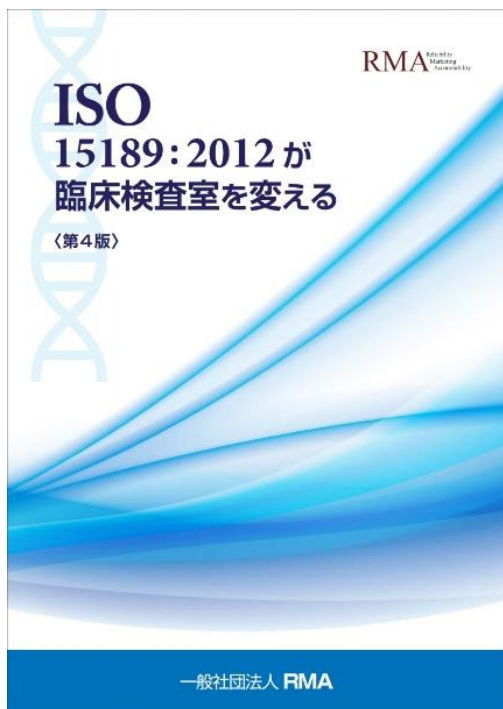
文書番号	英語規格名称	ISO/TC212国内検討委員会が推奨する名称	最新の審議状況
ISO/ 35001:2019 (Ed. 1)	Biorisk management for laboratories and other related organizations	試験所及び関連組織の バイオリスク・マネジメント の要求事項	2019-11-12 ISの発行
NWIP TS BSP Competence	Competence of Biosafety Advisors	バイオセーフティ 専門家の力量	

参考資料:

・日本臨床検査標準協議会. 日本臨床検査標準協議会会誌35巻. 1号. 2020年.

品質マネジメント関連書籍販売のご案内

ISO 15189:2012規格の臨床検査室への適用に関心のある臨床検査室関係者を支援することを目的としてJAB審査員を中心に2015年4月に「ISO 15189:2012が臨床検査室を変える」初版を発行しました。このたび、次の3点を主な改訂方針として第4版を発行しました。



- ★ ISO 15189規格を運用する観点から「運用のポイント」を加筆した
- ★ 新たに認定範囲に加わった遺伝子関連検査を加えた
- ★ 品質マネジメントシステム運用上で重要な標準作業書作成の意義と作成のポイント、問題解決のための効果的な是正処置と運用を記述した

A4 113ページ 定価：本体4,500円+税
送料は別途頂戴いたします

2020年7月末まで

発売記念特別価格 **本体4,100円+税**

にて販売させていただきます

【お申込み方法】

以下の内容をeメールに記載してjimukyoku@rma.tokyo宛にご連絡ください。

- ① 書籍「ISO 15189:2012が臨床検査室を変える 第4版」申込
- ② 郵便番号、ご住所
- ③ 機関名、部署名
- ④ ご氏名、フリガナ
- ⑤ 電話番号
- ⑥ eメール アドレス
- ⑦ 会員番号（RMAセミナー会員の方）
- ⑧ ご購入部数

RMA Web書籍販売サイトから書籍プレビューもご覧いただけます。<http://rma.tokyo/books>

ご注文をお待ちしております。

RMA 2020 年度 公開セミナー 開催予定表

1/2

6月末現在の開催予定を掲載いたします

No.	公開セミナー	会場	受講料 (消費税込)		2020年度																								
					2020年										2021年														
					上期						下期																		
					会員	非会員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月											
規格解説セミナー					★消費税率10%を適用しております。													4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	第48回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(大阪) 【中止】	大阪	¥22,000	¥44,000	4/17																								
2	第49回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京) 【中止】	東京	¥22,000	¥44,000		5/12																							
3	第50回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京) 【中止】	東京	¥22,000	¥44,000			6/16																						
4	第51回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000				7/14																					
5	第52回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000					8/21																				
6	第53回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000						9/24																			
7	第54回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000							10/20																		
8	第55回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000								11/17																	
9	第56回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000									12/17																
10	第57回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000											1/19														
11	第58回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000													2/5												
12	第59回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000																		3/2							
内部監査員養成セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月													
13	第70回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)【中止】	東京	¥44,000	¥88,000	4/21 22																								
14	第71回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(大阪)【中止】	大阪	¥44,000	¥88,000		5/14 15																							
15	第72回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)【中止】	東京	¥44,000	¥88,000			6/4 5																						
16	第73回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000				7/1 2																					
17	第74回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(大阪)	大阪	¥44,000	¥88,000					8/19 20																				
18	第75回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000						9/10 11																			
19	第76回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000							10/8 9																		
20	第77回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(大阪)	大阪	¥44,000	¥88,000								11/10 11																	
21	第78回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000									12/3 4																
22	第79回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000										1/13 14															
23	第80回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(大阪)	大阪	¥44,000	¥88,000													2/16 17												
24	第81回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000																		3/18 19							
	第82回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000				7/30 31																					
リスク・マネジメントセミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月													
25	第11回 ISO/IEC 17025:2017 リスク・マネジメントセミナー(東京) 【中止】	東京	¥22,000	¥44,000	4/10																								
26	第12回 ISO/IEC 17025:2017 リスク・マネジメントセミナー(大阪) 【中止】	大阪	¥22,000	¥44,000			6/12																						
27	第13回 ISO/IEC 17025:2017 リスク・マネジメントセミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000				7/10																					
28	第14回 ISO/IEC 17025:2017 リスク・マネジメントセミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000							10/16																		
29	第15回 ISO/IEC 17025:2017 リスク・マネジメントセミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000								11/27																	
30	第16回 ISO/IEC 17025:2017 リスク・マネジメントセミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000										1/29															

RMA 2020年度 公開セミナー 開催予定表

2/2

No.	公開セミナー	会場	受講料 (消費税込)		2020年度																	
					2020年										2021年							
					上期								下期									
					会員	非会員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
不確かさセミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
31	2020年版 不確かさにおける基礎から応用までセミナー（東京）【中止】	東京	¥22,000	¥44,000			6/25															
32	2020年版 不確かさにおける基礎から応用までセミナー（大阪）	大阪	¥22,000	¥44,000				7/3														
	2020年版 不確かさにおける基礎から応用までセミナー（東京）	東京	¥22,000	¥44,000												2/19						
33	これで納得！2020 GUM 不確かさセミナー（東京）	東京	¥22,000	¥44,000							10/6											
34	これで納得！2020 GUM 不確かさセミナー（大阪）	大阪	¥22,000	¥44,000							10/23											
35	第5回 基本モデル事例で理解する不確かさ演習セミナー（東京）	東京	¥22,000	¥44,000									12/15									
36	イチからはじめるモンテカルロ計算による不確かさ評価（東京）	東京	¥22,000	¥44,000												2/9						
食品、微生物分野セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
37	第13回 食品・生物系試験所のための内部監査員養成セミナー（東京）	東京	¥22,000	¥44,000					8/28													
38	第14回 食品・生物系試験所のための内部監査員養成セミナー（東京）	東京	¥22,000	¥44,000												2/26						
39	微生物試験におけるバリデーションと不確かさセミナー（大阪）	大阪	¥22,000	¥44,000						9/16												
40	微生物試験におけるバリデーションと不確かさセミナー（東京）	東京	¥22,000	¥44,000							10/27											
41	食品・理化学試験 バリデーションと不確かさセミナー（大阪）【中止】	大阪	¥22,000	¥44,000			6/3															
42	食品・理化学試験 バリデーションと不確かさセミナー（東京）	東京	¥22,000	¥44,000				7/8														
臨床検査分野セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
43	第16回 ISO 15189 規格解釈と運用セミナー（大阪）【中止】	大阪	¥22,000	¥44,000		5/27																
44	第17回 ISO 15189 規格解釈と運用セミナー（東京）【中止】	東京	¥22,000	¥44,000			6/24															
45	第18回 ISO 15189 規格解釈と運用セミナー（大阪）	大阪	¥22,000	¥44,000					8/26													
	第19回 ISO 15189 規格解釈と運用セミナー（東京）	東京	¥22,000	¥44,000						9/30												
	第20回 ISO 15189 規格解釈と運用セミナー（東京）	東京	¥22,000	¥44,000									12/9									
46	第6回 臨床検査室のための内部監査員養成セミナー基礎編（東京）	東京	¥22,000	¥44,000							10/28											
47	第4回 標準作業書作成セミナー（半日）（東京）	東京	¥11,000	¥22,000										1/27								
48	第8回 臨床検査室 易しい不確かさセミナー —測定不確かさの推定のコツと留意点—（東京）	東京	¥22,000	¥44,000								11/25										
49	第1回 問題解決のための効果的な正処置と運用セミナー（半日）（東京）	東京	¥11,000	¥22,000												2/25						
50	第1回 ゼロから学ぶ臨床検査の統計学（半日）（東京）	東京	¥11,000	¥22,000													3/23					
試験技術セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
51	第14回 その「測定数値」を説明できますか？（もっと進めてバージョン3） —トレーサビリティ、内部校正、測定不確かさ、リスクをキーワードに—（東京）【中止】	東京	¥22,000	¥44,000			6/8															
52	第15回 その「測定数値」を説明できますか？（もっと進めてバージョン3） —トレーサビリティ、内部校正、測定不確かさ、リスクをキーワードに—（東京）	東京	¥22,000	¥44,000						9/8												
53	第16回 その「測定数値」を説明できますか？（もっと進めてバージョン3） —トレーサビリティ、内部校正、測定不確かさ、リスクをキーワードに—（東京）	東京	¥22,000	¥44,000													3/5					
54	第3回 標準物質・技能試験・規格と分析技術の向上（半日）（東京）【中止】	東京	¥11,000	¥22,000			5/22															
55	第4回 標準物質・技能試験・規格と分析技術の向上（半日）（東京）	東京	¥11,000	¥22,000								11/6										
プチセミナー ★消費税率10%を適用しております。					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
1	第20回プチ・セミナー「ISOと製品認証」【中止】	東京	¥7,700	¥15,400	4/24																	
2	第21回プチ・セミナー「ISOのいろは — はじめの一步 —」【中止】	東京	¥7,700	¥15,400		5/21																
3	第22回プチ・セミナー「ISOと製品認証」	東京	¥7,700	¥15,400				7/17														
4	第23回プチ・セミナー「ISOのいろは — はじめの一步 —」	東京	¥7,700	¥15,400						9/17												
5	第24回プチ・セミナー「ISOと製品認証」	東京	¥7,700	¥15,400							10/30											
6	第25回プチ・セミナー「ISOのいろは — マネジメントシステム —」	東京	¥7,700	¥15,400								11/26										
7	第26回プチ・セミナー「ISOのいろは — 標準化のすすめ —」	東京	¥7,700	¥15,400											1/28							

事務局だより

2020年度公開セミナー予定を掲載しました

2020年度のRMA公開セミナー予定を6月に更新いたしましたので再度掲載いたします。

RMAウェブサイトのトップページ(<http://rma/tokyo/>)にも掲載いたしましたのでぜひご覧ください。

RMAフォーラムにつきまして

6月11日(京都)、19日(東京)に予定しておりました「RMAフォーラム」は秋に延期いたします。

日程が決まり次第ご連絡します。

COVID-19(新型コロナウイルス)の感染予防対策につきまして

- COVID-19(新型コロナウイルス)感染予防対策に伴い、4月～6月のセミナー開催を中止させていただきました。皆様にはご不便をお掛け致しましたが、7月より公開セミナーを再開することとなりました。今後のセミナーにおいても開催日の変更等が発生する場合には、ご受講を予定されている方には随時メールでご連絡をさせていただきます。またRMAウェブサイトにも掲載いたします。
- セミナー開催時、RMAでは以下の通り感染予防対策を実施いたします。
 - ・受付時に受講いただく皆様に除菌スプレーまたは除菌シートをお渡しいたします。
 - ・極力距離を開けてご着席いただきます。
 - ・セミナーで使用いたします備品はアルコール消毒いたします。
 - ・セミナー中、適宜換気をいたします。
 - ・職員はマスクを着用させていただきます。
- セミナーをご受講いただく皆様へのお願い
 - ・セミナー受講の際には手洗い・うがい・マスクの着用等にご協力いただけますようお願いいたします。

編集 後記

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、RMA事務局も4、5月の2か月間休業しておりました。

久しぶりに毎日自宅で過ごしたため、長年の課題であった部屋の片づけをすることにしました。何年も溜めこんでいたお料理やお菓子のレシピをパソコンに取り込み、ペーパーレス化を行ってみました。部屋の片隅に積んであった紙が無くなり大分スッキリしたのと同時に、こんなに色々なレシピがあるのだから、たまには手の込んだお料理も作らないと…と反省する良い機会にもなりました。

事務局 編集担当 中澤

セミナーのお申し込みは開催日の約3か月前から可能です。

お申し込みお待ちしております！



発行：一般社団法人 RMA

東京都品川区西五反田1丁目11-1

アイオス五反田駅前 502号

 03-6417-3400

 jimukyoku@rma.tokyo

<http://rma.tokyo>